

令和4年度

# 「学生による授業評価」の概要

令和5年4月

県立広島大学大学教育実践センター

### 【 前 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部地域創生学科（学科別集計）・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,470
- 回答率 33.1%

今年度の前期は、原則対面で授業が実施された。学生アンケート調査はオンライン回答で実施され、回答率は33.1%であり、昨年度前期の回答率55.9%に比べて今年度前期は回答率が大幅に低下した。昨年度前期の授業はオンライン実施が中心であったため、オンライン調査もスムーズに行われたが、今年度は対面実施の授業においてオンライン調査であるため、その場で回答しなかった学生は、その後も回答せず、回答率が大幅に下がったものと推察する。以下、アンケートの設問毎に詳細について考察する。

まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答の割合が前年度とほぼ同水準の約97%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。一方、設問2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、2時間以上が約47%であり、オンライン実施であった昨年度(45.2%)とほぼ同水準であり、昨年度と同程度の授業外学修がなされているといえる。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は昨年度に引き続いて低かった(今年度：3.4%、昨年度：3.2%)。次に、授業評価に関わる設問3～9については、設問4「この授業では能動的学修機会がある。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合が今年度は約83%であり、昨年度の約65%に比べて大幅に上昇していた。これは、対面実施による教員と学生および学生同士のコミュニケーションが十分でできたことによるものであるといえる。その他の設問については、昨年度とほぼ同様であった。最後に、設問10「総合的に判断して、この授業に満足している。」については、肯定的な回答の割合が約94%であり全体的な満足度は高いといえる。

アンケート調査結果の内容は、今年度は対面実施であったことによる学生の充実したキャンパスライフも後押しして、授業に対する姿勢、授業外の学修時間、授業に対する満足度は良好な結果となった。しかし、回答率が33.1%と低いことから、この結果の信頼性は十分ではないと考えられる。今後、十分な回答率をいかに確保するかが重要な課題である。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 地域創生学部  
 ■科目名 地域創生学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 4,441  
 ■回答者数 1,470  
 ■回答率 33.1%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	782 53.2%	653 44.4%	31 2.1%	4 0.3%	3.51
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	302 20.5%	565 38.4%	553 37.6%	50 3.4%	2.76
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	725 49.3%	604 41.1%	120 8.2%	21 1.4%	3.38
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	617 42.0%	606 41.2%	194 13.2%	53 3.6%	3.22
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	565 38.4%	775 52.7%	118 8.0%	12 0.8%	3.29
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	605 41.2%	792 53.9%	67 4.6%	6 0.4%	3.36
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	655 44.6%	732 49.8%	75 5.1%	8 0.5%	3.38
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	549 37.3%	787 53.5%	125 8.5%	9 0.6%	3.28
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	597 40.6%	787 53.5%	78 5.3%	8 0.5%	3.34
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	657 44.7%	729 49.6%	73 5.0%	11 0.7%	3.38

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.33	3.50	3.75	4.00	0.27
1.71	2.45	2.75	3.07	4.00	0.51
2.00	3.18	3.50	3.64	4.00	0.40
1.57	3.00	3.35	3.68	4.00	0.52
2.00	3.12	3.33	3.50	4.00	0.32
2.62	3.12	3.41	3.50	4.00	0.30
2.52	3.20	3.44	3.59	4.00	0.32
2.50	3.14	3.33	3.51	4.00	0.32
2.38	3.21	3.35	3.57	4.00	0.31
2.29	3.26	3.46	3.61	4.00	0.33

【 後 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部 地域創生学科 (学科別集計)・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,177
- 回答率 20.7%

前期に引き続き、原則対面で授業が実施された。ウェブ回答による学生アンケート調査の回答率は20.7%であり、昨年度後期の回答率55.9%に比べて大幅に低下した。回答率の低下の傾向は、前期についても同様であった。以下、アンケートの設問毎に詳細について考察する。

まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答の割合が前年度とほぼ同水準の約98%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。設問2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、2時間以上が約50.8%であり、前年度から約10ポイントの低下であった。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は昨年度に比べて3.3ポイント増加した(今年度:6.1%, 昨年度:2.8%)。一方、設問4「この授業では能動的学修機会がある。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合が今年度は約82%であり、昨年度の約66%に比べて大幅に上昇してした。これらより、授業時間外での学修時間は若干低下したものの、授業時間中は学生が積極的に授業に参加している様子がうかがえる。その他の設問項目については、前年度と同水準または若干の上昇が認められた。

これらの点から、授業時間中における学生の受講姿勢、意欲的な参加、授業満足度は高いレベルで維持できているといえる。今年度は3年次配当の専門科目が開講されており、各コース・分野において昨年度に比べて実習・実験が含まれる科目が増えた。そのため、基本的に授業時間中に完結した授業展開となっている科目もあるものと考えられ、それが授業外学修時間の低下の一因ではないかと推察される。しかし、全学的に回答率が低い傾向にあることから、このアンケート結果が学生の全体像を反映したものになっているとは言い難い。今後も継続的に、十分な回答率を確保するための工夫が課題である。

令和04年度後期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 地域創生学部  
 ■科目名 地域創生学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 5,673  
 ■回答者数 1,177  
 ■回答率 20.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	652 55.4%	502 42.7%	21 1.8%	2 0.2%	3.53
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	218 18.5%	380 32.3%	507 43.1%	72 6.1%	2.63
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	522 44.4%	544 46.2%	98 8.3%	13 1.1%	3.34
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	492 41.8%	472 40.1%	174 14.8%	39 3.3%	3.20
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	449 38.1%	655 55.6%	64 5.4%	9 0.8%	3.31
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	511 43.4%	616 52.3%	41 3.5%	9 0.8%	3.38
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	518 44.0%	599 50.9%	51 4.3%	9 0.8%	3.38
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	429 36.4%	633 53.8%	101 8.6%	14 1.2%	3.25
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	481 40.9%	643 54.6%	45 3.8%	8 0.7%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	511 43.4%	609 51.7%	45 3.8%	12 1.0%	3.38

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
	Q1	2.80	3.33	3.60	3.79	4.00
Q2	1.39	2.33	2.67	3.00	4.00	0.54
Q3	2.00	3.00	3.36	3.67	4.00	0.41
Q4	1.75	2.78	3.28	3.72	4.00	0.58
Q5	2.40	3.00	3.32	3.50	4.00	0.34
Q6	2.00	3.15	3.40	3.61	4.00	0.34
Q7	1.00	3.17	3.40	3.60	4.00	0.38
Q8	2.25	3.00	3.25	3.50	4.00	0.36
Q9	2.00	3.10	3.35	3.57	4.00	0.35
Q10	2.00	3.16	3.39	3.66	4.00	0.38

【 前 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 903
- 回答率 28.7%

多少の制約はあったもののやっとならで対面形式で授業が行われた。一方、本アンケートの回答数は前年の前期の 1,032 より少ない。低い回答数は電子媒体による回答が主な原因のように思われる。授業評価結果において、4 段階評価による 10 個の設問内容に対する全体の平均値を計算してみると、3.181 で高く、前年度同期の 3.155 とほぼ同じであった。このことは、オンライン形式による授業がうまく対応できた可能性を示唆している。また、教員より「対面のほうが学習効率が高いと思う」というコメントがある一方、「昨年度のオンライン授業教材に対し、わかりやすかったという意見が多かったので、昨年の資料を生かしながら対面授業に取り組んだ。」もあり、激しい環境変化の中でも教員一人一人の取り組み方法によって授業評価をより高められると期待される。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 生物資源科学部  
 ■科目名 生物資源科学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 3,148  
 ■回答者数 903  
 ■回答率 28.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	432 47.8%	434 48.1%	35 3.9%	2 0.2%	3.44
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	160 17.7%	404 44.7%	317 35.1%	22 2.4%	2.78
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	289 32.0%	485 53.7%	108 12.0%	21 2.3%	3.15
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	232 25.7%	412 45.6%	200 22.1%	59 6.5%	2.90
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	302 33.4%	523 57.9%	62 6.9%	16 1.8%	3.23
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	316 35.0%	530 58.7%	53 5.9%	4 0.4%	3.28
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	356 39.4%	486 53.8%	54 6.0%	7 0.8%	3.32
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	305 33.8%	474 52.5%	113 12.5%	11 1.2%	3.19
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	309 34.2%	525 58.1%	56 6.2%	13 1.4%	3.25
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	330 36.5%	497 55.0%	66 7.3%	10 1.1%	3.27

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.25	3.42	3.55	4.00	0.25
2.00	2.64	2.78	3.00	4.00	0.33
2.33	3.00	3.15	3.33	4.00	0.33
1.86	2.65	3.00	3.50	4.00	0.56
2.50	3.00	3.22	3.40	4.00	0.29
2.00	3.14	3.26	3.43	4.00	0.35
2.00	3.17	3.33	3.47	4.00	0.35
2.00	3.00	3.18	3.39	4.00	0.35
2.50	3.10	3.22	3.36	3.67	0.23
2.00	3.10	3.30	3.40	3.69	0.34

【 後 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 463
- 回答率 16.3%

回答率が 16.3%で非常に低く、前年度後期の 20.5%と同年度前期の 28.7%よりも低い。回答率向上が望まれる。集計結果の読み取りに限りがある。この点を考慮しつつ集計結果をみると、10個の設問内容に対する4段階評価による全体の平均値は 3.226 で前年度後期の 3.202 と同等であった。前年度前期 3.155 と今年度前期の 3.181 よりは後期のほうが少し高い傾向があると思われる。前期と同様に後期も対面授業が継続できたが、後期においてもそれぞれの科目は対面授業再開後初めのこととなり、適応のための工夫や比較評価のコメントも見られた。従来の対面授業にオンライン授業の良いところを加えた、改善型対面授業を期待したい。

令和04年度後期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 生物資源科学部  
 ■科目名 生物資源科学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 2,836  
 ■回答者数 463  
 ■回答率 16.3%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	223 48.2%	230 49.7%	9 1.9%	1 0.2%	3.46
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	106 22.9%	178 38.4%	167 36.1%	12 2.6%	2.82
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	190 41.0%	223 48.2%	43 9.3%	7 1.5%	3.29
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	148 32.0%	204 44.1%	84 18.1%	27 5.8%	3.02
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	157 33.9%	271 58.5%	29 6.3%	6 1.3%	3.25
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	181 39.1%	254 54.9%	22 4.8%	6 1.3%	3.32
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	183 39.5%	252 54.4%	21 4.5%	7 1.5%	3.32
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	157 33.9%	263 56.8%	38 8.2%	5 1.1%	3.24
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	166 35.9%	256 55.3%	36 7.8%	5 1.1%	3.26
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	169 36.5%	260 56.2%	29 6.3%	5 1.1%	3.28

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
	Q1	3.00	3.33	3.50	3.65	4.00
Q2	1.50	2.50	2.78	3.00	4.00	0.46
Q3	2.00	3.00	3.33	3.50	4.00	0.44
Q4	2.00	2.67	3.00	3.50	4.00	0.52
Q5	2.50	3.08	3.33	3.50	4.00	0.37
Q6	2.67	3.06	3.33	3.50	4.00	0.31
Q7	2.00	3.15	3.33	3.60	4.00	0.39
Q8	2.50	3.00	3.25	3.50	4.00	0.33
Q9	2.00	3.06	3.25	3.50	4.00	0.38
Q10	2.33	3.00	3.30	3.50	4.00	0.39

【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,101
- 回答率 35.3%

今期は殆どの授業が対面形式で行われた。学生のアンケート回答率は35.3%であり、昨年度前期の50.7%を下回った。回答者数は年々減少する傾向があり、オンライン回答による影響と考えられる。

Q1「真剣に取り組んだ」の平均は3.52（中央値3.55）、Q10「この授業に満足している」の平均は3.32（中央値3.33）であり、昨年前期よりも高い評価となった。これは、対面授業が再開されたことで、学生同士が直接顔を合わせてグループワークやディスカッションを行う機会が増え、学生同士のコミュニケーションが活発になり、学修への意欲や取り組みが向上したことが要因と考えられる。また、授業だけでなく、サークル活動や学外実習が再開されたことも、学生のポジティブな反応を引き出したと考える。ただし、教員や学生の中には、オンライン授業の利点を感じる者も多く存在する。オンラインの利点を活かし、対面授業と組み合わせることで、より質の高い授業を担保することが必要である。

Q2「授業外学習時間」は平均2.89であり、設問の中で最も低い値となった。この傾向は授業形態に関係なく、長年にわたり続いている。単に授業外学修の時間が増えることが良いわけではなく、学生の能動的な学修につながる課題を工夫することが必要と考える。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 保健福祉学部  
 ■科目名 保健福祉学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 3,118  
 ■回答者数 1,101  
 ■回答率 35.3%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	590 53.6%	494 44.9%	17 1.5%	0 0.0%	3.52
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	236 21.4%	515 46.8%	340 30.9%	10 0.9%	2.89
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	457 41.5%	568 51.6%	70 6.4%	6 0.5%	3.34
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	503 45.7%	483 43.9%	96 8.7%	19 1.7%	3.34
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	376 34.2%	661 60.0%	53 4.8%	11 1.0%	3.27
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	410 37.2%	639 58.0%	49 4.5%	3 0.3%	3.32
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	385 35.0%	664 60.3%	48 4.4%	4 0.4%	3.30
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	395 35.9%	640 58.1%	59 5.4%	7 0.6%	3.29
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	391 35.5%	665 60.4%	43 3.9%	2 0.2%	3.31
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	399 36.2%	657 59.7%	41 3.7%	4 0.4%	3.32

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.83	3.35	3.55	3.75	4.00	0.27
2.00	2.68	2.90	3.21	4.00	0.44
2.20	3.15	3.38	3.63	4.00	0.36
2.00	3.19	3.47	3.75	4.00	0.49
2.44	3.11	3.27	3.40	4.00	0.26
2.54	3.20	3.33	3.50	4.00	0.28
2.75	3.17	3.31	3.46	4.00	0.24
2.33	3.16	3.33	3.50	4.00	0.30
2.67	3.21	3.33	3.46	4.00	0.24
2.22	3.20	3.33	3.50	4.00	0.29

【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部全体・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 439
- 回答率 22.7%

令和4年度後期のアンケート回答率は22.7%であり、令和4年度前期35.3%および令和3年度後期24.8%を下回った。

回答結果をみると全ての設問において令和4年度前期および令和3年度後期に比べて学生評価が高かった。例えば、Q1「授業に真剣に取り組んだ」は、令和4年度前期3.52、令和3年度後期3.56に対し、令和4年度後期は3.62（中央値3.63）であった。また、Q10「この授業に満足している」は令和4年度前期3.32、令和3年度後期3.33に対し、令和4年度後期は3.47であった。さらに、Q2「授業外の学修時間」（3.09）を除く全ての項目が3.41を超える高い水準となった。

これらは、R4年度前期に引き続き、多くの授業が対面で実施されたことで学生同士が顔を合わせ、直接コミュニケーションする機会が増加し、学生の学修意欲が向上したことが要因の1つと考える。特に保健福祉学部では各専門職独自の知識や技能を修得するために、学内および学外での実習授業が設定されている。これらの実習では、学生同士や対象者との関わりの中で実際の技能や技術を学ぶことが求められ、オンラインで行うには限界がある。対面授業がより多く実施されたことで、よりリアルで能動的な学修機会が提供され、学生の満足感や学修意欲の向上に繋がったと考える。ただし、22.7%の回答率では、学生全体の結果を反映したとはいえない。教員のコメントにも回答率低下を問題とする意見や工夫が必要といった意見が多くみられている。授業評価アンケートの意義や必要性を丁寧に説明し、回答へのモチベーション向上を図ると共に、アンケートの実施方法を工夫する必要がある。

■学部・学科 保健福祉学部  
 ■科目名 保健福祉学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 1,934  
 ■回答者数 439  
 ■回答率 22.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	278 63.3%	155 35.3%	6 1.4%	0 0.0%	3.62
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	132 30.1%	214 48.7%	92 21.0%	1 0.2%	3.09
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	215 49.0%	217 49.4%	7 1.6%	0 0.0%	3.47
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	236 53.8%	184 41.9%	19 4.3%	0 0.0%	3.49
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	185 42.1%	247 56.3%	7 1.6%	0 0.0%	3.41
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	219 49.9%	211 48.1%	9 2.1%	0 0.0%	3.48
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	188 42.8%	244 55.6%	7 1.6%	0 0.0%	3.41
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	194 44.2%	235 53.5%	10 2.3%	0 0.0%	3.42
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	192 43.7%	240 54.7%	7 1.6%	0 0.0%	3.42
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	215 49.0%	216 49.2%	6 1.4%	2 0.5%	3.47

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
	Q1	3.00	3.43	3.63	3.88	4.00
Q2	2.00	2.68	3.00	3.44	4.00	0.53
Q3	2.67	3.30	3.47	3.67	4.00	0.31
Q4	2.00	3.25	3.52	3.85	4.00	0.41
Q5	2.86	3.25	3.39	3.66	4.00	0.31
Q6	2.86	3.25	3.50	3.78	4.00	0.33
Q7	2.86	3.15	3.43	3.64	4.00	0.31
Q8	2.86	3.19	3.50	3.67	4.00	0.32
Q9	2.86	3.25	3.40	3.65	4.00	0.31
Q10	2.86	3.25	3.50	3.67	4.00	0.31

---

## 保健福祉学部（新課程）

---

### 【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,773
- 回答率 40.9%

今期は殆どの授業が対面形式で行われた。学生のアンケート回答率は 40.9%であり、旧課程の学生の回答率 35.3%よりは若干高かったが、昨年度前期の 75.7%を大きく下回った。回答者数が年々減少する傾向はオンライン回答による影響と考えられる。

Q1「真剣に取り組んだ」の平均は 3.54（中央値 3.53）、Q8「さらに学びたくなった」の平均は 3.40（中央値 3.54）、Q10「この授業に満足している」の平均は 3.45（中央値 3.45）であり、回答した学生の大半が、大学での学びに真剣に取り組み、授業に満足していると考えられる。以上の結果は、対面授業、サークル活動、学内行事などが再開されたことで、学生同士のコミュニケーションが活発になり、学修意欲が向上したことが要因の 1 つと考えられる。ただし、教員や学生の中には、オンライン授業の利点を感じる者も多く存在する。オンラインと対面の両方の利点を活かすことで、より質の高い教育を担保することが必要である。

Q2「授業外学習時間」は平均 2.87（中央値 2.89）であり、設問の中で最も低い値となった。この傾向は長年にわたり続いている。1、2 年の早い段階から学修習慣を身に着けることが必要であり、学生の能動的学修を促進する課題の工夫が今後の課題である。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 保健福祉学部（新課程）  
 ■科目名 保健福祉学部（新課程）全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 4,340  
 ■回答者数 1,773  
 ■回答率 40.9%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	990 55.8%	757 42.7%	25 1.4%	1 0.1%	3.54
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	449 25.3%	703 39.7%	570 32.1%	51 2.9%	2.87
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	842 47.5%	801 45.2%	117 6.6%	13 0.7%	3.39
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	700 39.5%	638 36.0%	339 19.1%	96 5.4%	3.10
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	764 43.1%	928 52.3%	67 3.8%	14 0.8%	3.38
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	832 46.9%	897 50.6%	40 2.3%	4 0.2%	3.44
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	876 49.4%	848 47.8%	48 2.7%	1 0.1%	3.47
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	777 43.8%	933 52.6%	59 3.3%	4 0.2%	3.40
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	831 46.9%	908 51.2%	33 1.9%	1 0.1%	3.45
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	853 48.1%	876 49.4%	38 2.1%	6 0.3%	3.45

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.89	3.43	3.53	3.70	4.00	0.19
1.56	2.56	2.89	3.11	3.79	0.40
2.22	3.19	3.40	3.63	3.80	0.35
2.14	2.69	3.24	3.61	3.88	0.53
2.69	3.27	3.40	3.50	4.00	0.20
3.06	3.25	3.44	3.65	3.83	0.21
3.00	3.34	3.47	3.61	3.85	0.19
3.00	3.28	3.40	3.54	3.81	0.18
3.00	3.33	3.43	3.56	3.94	0.18
3.00	3.30	3.45	3.59	4.00	0.20

---

## 保健福祉学部（新規課程）

---

### 【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部（新規課程）全体 ・ 専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 4,889
- 回答率 17.1%

アンケートの回答率が 17.1%であり、これは令和 4 年度前期 40.9%、令和 3 年度後期 41.0%を大きく下回った。回答率の低下は保健福祉学部だけでなく、全学部にみられる傾向である。授業評価アンケートの意義や必要性を丁寧に説明し、回答へのモチベーション向上を図ると共に、アンケートの実施方法等を検討する必要があると考える。

Q2「自己学修時間」（2.87）を除く全項目において授業評価の平均が 3.15 を上回る高い水準を維持していた。さらに Q4「能動的学修機会」は 3.15 であり、令和 4 年度前期 3.10、令和 3 年度後期 3.00 よりも高い値を示した。これは、令和 4 年度前期に引き続き、対面授業が増えたことで学生同士のコミュニケーションの機会が増え、学修意欲が向上すると共に、自分なりの能動的学修方法を身に着けつつあることがうかがえる。その一方で、Q4「能動的学修機会」以外の項目が、令和 3 年度後期、令和 4 年度前期に比べて全体的に少しずつ低下している。これは、入学時からのオンライン学修に慣れた学生が、対面での学修に戸惑い、学修方法の切り替えに苦労していることを意味しているのかもしれない。対面授業とオンライン授業の両方の利点を活かし、学生が学修しやすい環境と質の高い教育を担保することが必要である。また、3 年次以降の旧課程の学生は、令和 3 年度後期および令和 4 年度前期に比べて令和 4 年度後期で授業評価が少しずつ向上している。保健福祉学部では、3 年次以降に各コースの専門科目が開講され、1、2 年次には基礎科目の学修が中心となる。そのため、1、2 年次には学修に対する目的意識を見失ってしまい、意欲やモチベーションが高まりにくい傾向があるのかもしれない。1、2 年次から各コースの専門性を意識した授業を展開するなど、学生が目的をもって学修できる工夫が必要である。

令和04年度後期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 保健福祉学部（新課程）  
 ■科目名 保健福祉学部（新課程）全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 4,889  
 ■回答者数 834  
 ■回答率 17.1%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	439 52.6%	388 46.5%	6 0.7%	1 0.1%	3.52
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	219 26.3%	320 38.4%	259 31.1%	36 4.3%	2.87
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	353 42.3%	382 45.8%	86 10.3%	13 1.6%	3.29
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	333 39.9%	340 40.8%	112 13.4%	49 5.9%	3.15
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	320 38.4%	473 56.7%	36 4.3%	5 0.6%	3.33
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	370 44.4%	433 51.9%	27 3.2%	4 0.5%	3.40
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	357 42.8%	443 53.1%	27 3.2%	7 0.8%	3.38
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	358 42.9%	431 51.7%	37 4.4%	8 1.0%	3.37
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	340 40.8%	452 54.2%	36 4.3%	6 0.7%	3.35
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	362 43.4%	438 52.5%	27 3.2%	7 0.8%	3.38

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
	Q1	3.00	3.33	3.56	3.71	4.00
Q2	1.50	2.67	3.00	3.25	4.00	0.51
Q3	2.00	3.00	3.33	3.57	4.00	0.41
Q4	1.75	2.86	3.33	3.67	4.00	0.55
Q5	2.81	3.14	3.33	3.50	3.91	0.24
Q6	2.50	3.20	3.43	3.62	4.00	0.27
Q7	2.89	3.22	3.40	3.60	4.00	0.26
Q8	2.00	3.19	3.40	3.60	4.00	0.30
Q9	2.50	3.14	3.38	3.57	4.00	0.27
Q10	2.00	3.19	3.40	3.60	3.86	0.30

---

## 全学共通教育科目

---

### 【前期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 3,152
- 回答率 37.3%

### 【総評】

令和4年度前期は、3キャンパス横断型の一部科目を除きほとんどの授業が対面で実施されることとなったが、オンライン授業を余儀なくされた時期における「授業づくり」の手法が、再開された対面授業にも活かされているように見受けられる。

たとえば、Q3の「授業時間外に取り組むべき課題が示されている」という項目に肯定的に回答した学生は91.0%、平均値は3.37であった。また、「授業外学修時間」について問うQ2では過半数の学生が肯定的に回答し、平均値は2.61を得ている。いずれも、いわゆる「コロナ禍」以前よりも高い評価を得た昨年と同等の値であることを考えると、これらは、授業担当者による課題の設定が明確であったばかりでなく、その量と質についても適切な配慮がなされていたことの証左と言えるであろう。

また、授業における「能動的学修機会」について問うQ4では、肯定的評価の割合は82.7%、平均値は3.24であった。平成29年度前期においてQ4に対する肯定的回答が74.6%、平均値が3.08であったことに照らし、いわゆる「コロナ禍」の中で授業担当者が苦悶するとともに経験を積み上げたことが、各授業を学生にとって好ましい形態・内容へと高めたものと考えたい。

ただし、本調査の回答率は問題とされなければならない。マークシート形式であった平成29年度前期には92.3%あったものが、昨年度前期は64.8%となり、今期は4割を切る状態である。アンケートに答える学生は、そもそも授業に興味・関心を寄せ積極的に受講している場合が多く、肯定的な回答が集まりやすい。授業評価の精度を高めるためには、学生からも調査の方法や時期に関する意見を聴取するなどして、回答率向上の方策を検討する必要がある。

### 【初年次導入】

本年度は昨年度と比較してほとんどを対面授業で実施した。本授業では個別演習やディスカッションを多用する形式であるため、オンラインでは難しかったことが対面で実施できるようになり、更に教員ごとで各自の工夫をしたことによって学生の満足度は高くなったと考える。実際、対面で望む声は多く対面授業を主としつつオンラインの良さも活かした授業運営が今後の課題となる。

## 【情報】

今年度は、演習科目である ICT リテラシー I は対面方式を中心に実施できるようになったが、状況に合わせてオンライン配信と組み合わせて実施するケースなどもあった。過去 2 年、オンライン講義を中心に実施した際の知見も生かしながら、各先生がそれぞれの状況に合わせて柔軟に対応されている様子であり、滞りなく授業が実施できたことに感謝したい。各先生のコメントを見る限り、一定のレベルの授業を提供することができたと評価している。

## 【外国語（英語）】

まず、各教員のコメントを踏まえて受講者から好評価を得たと考えられることを挙げる。

- ・ 対面授業の実施。
- ・ Teams や Zoom の活用。
- ・ グループワーク・ペアワークが復活したこと。

つまり対面授業では授業に参加しているという感覚がオンライン授業のみの場合と比べて高まる傾向があるということである。今後、平常化が進めばさらに授業効果が高まっていくことが予想される。

次に、やや困難なこと、改善が必要なことについて考察する。

- ・ 対面授業では発言が促進されるという側面がある一方、中には、発言を促してもなかなか発言しない学生もいる。

このことが示唆するのは、対面がよい、オンラインがよい、と一義的に決定するのは難しい、ということである。

- ・ 30 時間の授業で 1 単位ということで週 2 コマの授業が行われると 1 週間あたりの進捗が速くなり教員も受講者も負担が高まる。

このことについて、「進み具合を遅くしてみたい」というコメントが見られた。どのような内容についてどのようなペースで扱っていくかは授業担当教員の裁量であるが、もしこれが「クォーター制ではセメスター制と比べて授業進捗を低下させなければならない」ということを示唆するのなら、それは、よくない。考えてみると人間の学習活動とは、授業時間が 1 週間に 90 分から 180 分変わったことによって受講者の「学修」内容も 2 倍になる、という一次関数的な単純なものではないようである。セメスター制を再評価しセメスター制に戻すか、クォーター制をやめられないのであれば 15 時間の授業で 1 単位となるようにする、など、何らかの方策をとることで改善ができないか、検討が必要である可能性がある。

- ・ 現在の方法となってからアンケートの回答率が低くなった。

従来の方法では用紙やデータ入力などにコストがかかっていたので、オンライン形式を継続することには意義があると思われるが、方法を再検討したり、システムを再検討したりする必要があるものと思われる。

## 【外国語（英語以外）】

オンデマンド授業を余儀なくされた時期を超え、今学期は久しぶりに多くの科目で対面授業が実施できた。対面授業で十分なやりとりが行われたことで、オンライン授業しか選択肢のなかった時期に比べて、学生の能力の伸びが見られたことも報告された。対面授業の長所を意識しながら、外国語に関する興味をより引き出せるように工夫したいという意欲が教員のコメントにも見られた。一方、久しぶりの教室での授業であったため、機材が整わないという課題が報告された授業もあった。教員にとっては、オンライン授業を経験したことにより、PCか、紙か、Teamsか、書画カメラか、など、より適切な媒体、機材の選び方を考える学期であった。すべての外国語科目（中国語・韓国語・ドイツ語・アカデミック日本語）に共通して、アンケート回答率が低いことが共通する課題であろう。アンケートに書かれた学生からのコメントを受けて、次回からの授業運営の改善を図る声が教員のコメントにあったため、回収率の向上を目指したい。

## 【学際知（人文系）】

2022年前期、多くの講義が「対面」に戻ったと見られる。「学際知（人文系）」は、2科目から4報告があり、1科目（1報告）が「対面」（シラバスからの推測）、もう1科目（3報告）が「オンライン」であった。

結果、大過無しとの印象である。しかし、種々の問題の伏在を感じないではない。この度、「歴史学」は1キャンパス24名の履修者数に対して1名の教員が配置されたようであり、その報告が1件であった。それに対して「哲学」は3キャンパス280名の履修者に対して1名の教員が配置され、報告が3件（3キャンパス分）であった。以上が2科目4報告の内訳であるが、まず気づくのは、両科目の履修者数の開き（約10倍）である。バランス的に問題はないだろうか。また、それよりも気がかりなのは、「対面」か「オンライン」かについて、今後固定化される予想が立つことである。今年度はまだ小さな違いで済んでいるかもしれないが、5年後10年後、徐々にカリキュラムにいびつな構造をもたらさないだろうか（例えば、交通費を払って雨の日に大学に行く「対面」の面倒を考えると、気楽で融通が効きそうな「オンライン」科目を選ぶといった、安易な履修傾向は生まれないだろうか）。

こうしてみると「授業改善」以前に、「設計改善」の余地もありそうである。例えば、次のような点は気にかけておくべきことのように思われる。1) 教員配置の考え方の見直し（原則3キャンパスに同一科目を教えられる教員が3人、あるいはせめて2人必要ではないか）。その他、クラスサイズによっては、2) 履修上限を設ける工夫、3) 必要に応じて特定科目を隔年開講にする対応、4) 単位制度の実質化（cap制などをもう少し機能させる）、等々。

ついでながら、旧遠隔講義システムも無くなった。ちなみに筆者は、新遠隔講義システム導入決定時に、各キャンパスの収容人数について問い合わせたことがある。履修規模、教室サイズなどが、講義内容を定める要素にもなるからである。当時（2019年度末）の学術情報担当者からの回答は次のようなものであった。要点は2点。i) 新遠隔講義システムは、今までにないアクティブラーニング仕様としており、利用人数は、各教室最大40名程度を想定していること。そして、

ii) 40名を超える場合は、旧遠隔講義システムを利用して欲しいこと。

改革が改悪であっては元も子もなく、最低限の検証は必要である。新遠隔システムの成功例は、ぜひまたFD等で公開していただきたい。

### 【学際知（社会系）】

いかに学生の興味関心を高め、また主体的な学修を促進するかについて、各担当教員が考え、それぞれ授業の方法を工夫している様子が見えてくる。特に、3キャンパス合同授業の場合、オンライン限定かハイフレックスか、教員自身も学生の感想を聞きながら、模索している段階である。また、オンラインでのグループワークは、違うキャンパスの学生との交流を可能にする。

その一方で、意図的不参加や、回線不具合によるやむを得ない不参加などの問題も発生する。そのような場合の対応策を検討する必要がある。また、進め方やルールを事前に教員が説明し、状況に応じてアレンジするよう指示するとよいと考える。グループで何を話し合うのか、その意図は何かについても明示する必要がある。授業の意図や価値・目的・目標を教員がわかりやすく、繰り返し伝えることで、学修効果や意欲がよりいっそう高まるのではないかと考えた。

### 【学際知（自然系）】

昨年度の前期はオンライン授業であったが、今年度の前期は対面で行うことも可能となり、昨年度の学生アンケートなどを踏まえて、オンライン／対面を適切に選択し授業実施が行われたと判断される。オンラインで行った科目の中には、授業後のアンケートで「オンラインでは集中しづらい」という学生コメントがあったものもある。但し、該当科目は3キャンパスにまたがるものでオンラインで行わざるを得ないという制約があり、そういったことを学生に理解してもらう機会を設ける必要があるかもしれない。

### 【論理思考表現】

前期開講のプレゼンテーション演習について、昨年度と異なり、今年度は対面授業もしくは対面とオンラインの併用で授業が実施された。実施形式の違いに関係なく、授業評価アンケートの結果は良好であった。これは受講生と積極的にコミュニケーションをとりながらプレゼンテーションの進捗状況を把握し、きめ細か指導とアドバイスを行うといった担当教員の取り組みによるものであると考えられる。また、発表を公開にしたり、教員がプレゼンテーションの見本を示すなど担当教員独自で新たな取り組みを行っており、これらも受講生に高評価であったようである。来年度に向けて、大幅な改善および課題は必要ないように思えるが、授業評価アンケートの回答率が低いため、授業改善に生かすためにも、実施周知や時間の確保などを徹底する必要があると考えられる。

### 【キャリア開発】

ライブデザインは、3キャンパスの学生を対象とした集中講義であり、授業評価は高く、Zoom

によるオンライン授業に関する学生の評価は好評である。学生は、自身の人生設計に必要な知識を学び考察することについて有意義ととらえているようである。受講者が多く複数キャンパスを対象とする講義の場合には、オンライン授業が有効な方法と考えられる。今後の課題として、ブレイクアウトルームを用いたグループワークにすべてのメンバーが積極的に参加できる仕組みを検討することである。

### 【入門演習】

入門演習はどの科目も3キャンパスにまたがるものであるためオンラインで行わざるを得ない。しかし「演習」という科目の性格上、オンラインでは（具体的に学生から不満があった、ということではないようだが）いくらかのやりにくさを感じる担当教員もいるようである。また、科目（担当教員）によっては「大学で学ぶ内容の準備」となるよう位置付けていて、前期（第1クォーター）の早い時期に集中講義で行いたいという希望もある。この場合、他科目とのスケジュール的な調整が必要となると思われる。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 全学共通教育科目  
 ■科目名 全学共通教育科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 8,442  
 ■回答者数 3,152  
 ■回答率 37.3%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,738 55.1%	1,329 42.2%	69 2.2%	16 0.5%	3.52
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	484 15.4%	1,132 35.9%	1,345 42.7%	191 6.1%	2.61
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	1,504 47.7%	1,364 43.3%	223 7.1%	61 1.9%	3.37
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	1,436 45.6%	1,170 37.1%	427 13.5%	119 3.8%	3.24
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	1,261 40.0%	1,645 52.2%	201 6.4%	45 1.4%	3.31
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	1,310 41.6%	1,678 53.2%	136 4.3%	28 0.9%	3.35
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	1,378 43.7%	1,593 50.5%	144 4.6%	37 1.2%	3.37
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,013 32.1%	1,728 54.8%	354 11.2%	57 1.8%	3.17
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	1,235 39.2%	1,747 55.4%	138 4.4%	32 1.0%	3.33
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	1,317 41.8%	1,647 52.3%	143 4.5%	45 1.4%	3.34

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
	Q1	1.50	3.36	3.54	3.71	4.00
Q2	1.00	2.34	2.65	3.00	4.00	0.50
Q3	2.00	3.27	3.47	3.71	4.00	0.38
Q4	1.00	2.88	3.40	3.73	4.00	0.59
Q5	2.00	3.15	3.36	3.51	4.00	0.34
Q6	2.00	3.21	3.38	3.53	4.00	0.29
Q7	2.00	3.24	3.43	3.59	4.00	0.29
Q8	2.00	3.00	3.25	3.40	4.00	0.34
Q9	2.00	3.22	3.36	3.53	4.00	0.31
Q10	2.00	3.23	3.40	3.57	4.00	0.33

---

## 全学共通教育科目

---

### 【後期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,380
- 回答率 21.4%

### 【総評】

何よりもまず回答率を上げることが最大の課題である。現在の方法に切り替えて以降、その率は低迷していたが、今回はついに 2 割台になってしまった。あわせて、授業担当者からのコメントの数も増やすことも課題となる。アンケートの回収、取りまとめの方法、コメントの収集など、制度全体について見直すことが望まれる。

以下、科目担当主任からの総括コメントを掲げる。

### 【外国語（英語）】

《後期に関して》

今後改善していくべきこととして、まず、アンケートへの回答を促進する、ということがあげられる。後期分の教員コメントであるが、英語表現はゼロ件で、英語総合も件数が少なかった。後期に庄原・三原で開講される英語総合Ⅲ・Ⅳは選択科目で履修登録者数が少ない。そのため授業評価アンケートの回答数も少なく、庄原・三原の英語総合Ⅲ・Ⅳ担当教員の多くは、結果を踏まえてコメントすることが困難だった。広島では必修の英語総合Ⅱと選択の英語総合Ⅳが開講されたが、教員コメント数は少なかった。参考にすべきコメントとしては「授業時間内に回答時間を設けることができず、回答者が少ない点を反省している。」というコメントをあげる。かつては最終授業終了時（など）にマークシートを配付し回答を得ていたが、そのやり方を現在のシステムにあてはめ、授業時間にデバイスを用いて回答する時間を設けることで回答を促す必要があるのだということがわかる。

英語総合・英語表現は、30 時間・1 単位で、週あたり 2 コマ開講される。「1 週間あたりの進度が速くなり教員も受講者も負担が高まる」と前期の総評コメントに述べたが、そのことが後期分教員コメントからもうかがえた。同じ日に 2 コマ連続で授業を行っている教員のコメントに「2 コマ連続のため、2 コマ目の集中力をいかに持続させるか」が課題であると述べられていた。わたしが所属する三原キャンパスでは、2 コマ連続でなく、同じクラスの授業を異なる曜日に 1 コマずつ行っているが、受講者から「予習が大変なので、進度を緩めることはできませんか？」と相談された経験がある。三原の学生は指定規則の要求から必修科目が多く、空きコマはそれほど多くない。連続していなくても、やはり負荷が高い可能性がある。従前よりも語学力の養成が促進さ

れているかどうか、など、週2コマ実施の効果について検証するとよいかも知れない。

《一年を通じて》

前期は、ほぼ全面的に対面授業が実施されるようになったこと、それによってグループワーク・ペアワークが復活したことなどが受講者から好評価を受けたことがうかがえた。Teams や Zoom の活用も好評だったようである。しかし、30 時間 1 単位のため週 2 コマの授業が行われることにより教員も受講者も負担が高まっている可能性が示唆された。後期は、アンケート回答数も教員コメントも少なく状況をつかみにくいものの、同様の傾向がうかがえた。対面授業が一般的なものとなり、より中身が問われるようになってきている可能性があるため、それを念頭に日々の授業をより充実したものとしていくことが望まれる。

週 2 コマの授業が行われることについて、前期の総評では、「授業時間が 1 週間に 90 分から 180 分変わったことによって受講者の『学修』内容も 2 倍になる、という一次関数的な単純なものではない・・・(中略)・・・15 時間の授業で 1 単位となるようにする、など、・・・(中略)・・・検討が必要である可能性がある。」と述べた。後期の総評では「従前よりも語学力の養成が促進されているかどうか、など、週 2 コマ実施の効果について検証するとよいかも知れない。」と述べた。検証や検討が行われることを期待する。

後期の総評で述べたように、教員コメントを参考にして授業中に回答時間を設けるなど、アンケートへの回答を促進する工夫が必要となった。

後期には教員コメント数も減少した。特に英語表現に関しては教員コメントがほとんどなかった。アンケート結果を見てコメントすることで授業実践を振り返り改善のための一助とすることを担当教員に呼びかける必要があるのかも知れない。

### 【外国語（英語以外）】

対面授業が実施されたことによって、学生の授業参加が多く、意欲的な姿が見られたことが報告されていた。

授業の課題としては 2 コマ連続の授業であるので課題が多くなること、マスク着用であるため学生の反応を読み取ることが困難であることが指摘されていた。

授業評価アンケートそのものに関する課題としては、アンケートの回答率が低いことと担当教員からのコメントが寄せられた科目が限られたことが挙げられる。

### 【スポーツ・保健体育】

スポーツ実技 I :

開講時期がキャンパス間で異なることで、特に三原・庄原では第 1Q での実施であったため、3 年ぶりの実技対面授業では慎重を期す必要性が高かったことがうかがわれますが、幸いにして支障は見られず、三原キャンパス担当の非常勤講師の先生方には感謝申し上げます。

学生の運動欲求が高かったことが分かります。各教員がその期待に応えられるよう学びの場に来た感があります。今後は学生の協力から、協働的な学びの場ができるよう工夫が求められる

と思われます。

スポーツ実技Ⅱ：

私自身報告を失念していたことを今回気づきましたが、三原からも全く情報が上がってきておりませんので、三原キャンパスについては言及できません。

新規科目で初の対面授業ということであったが、内容が難しいと敬遠されがちになるようで、学生の自主的な学修が行われなくなるという点は考えどころでしょうか。庄原では、レポートでの引用や書き方などに対して十分な理解が得られていない学生が見られ、本授業内での修正を図りましたが、「実技」という言葉に引っ張られてしまった学生が多かったのかと思われます。授業イメージを変えつつ、学びの場にできるよう工夫が必要でしょう。

保健体育理論：

本科目についても私自身報告を失念していたことを今回気づきましたが、三原からも全く情報が上がってきておりませんので、三原キャンパスについては言及できません。

広島では事前学修時間が増え、効果的な授業になっていることが窺えますが、庄原では学生間格差が激しく、「ただ提出しただけ」のレベルから「教員の想定以上」のレベルまで分かれることが多く、フィードバックは必要に応じて行ったものの、不十分であったと感じられます。引き続き1年生で学びの誤解を解くことから始める必要があるのかと思ひます。

領域総括：

三原キャンパスでは非常勤講師でのみ対応となっており、来年度も授業について情報が上がって事ないことを懸念しています。

### 【学際知（人文系）】

少し長い前置きから失礼する。初等・中等・高等教育を通じて、これからは「アクティブ・ラーニング」「対話」「探求」を重視すべきという。言われるまでもない当然のことで、二千年以上、学問はずっとそのようなものはずではなかったかとも思われるが、このコロナ騒動は、期せずして今日の教育の実態を浮き彫りにしたように見えた。そのことは、試みに、次のように問えば確認できるかもしれない。2019/2020年シーズンの冬、インフルエンザの流行は、例年に比べて相当低く抑えられたのだが（参考資料「インフルエンザの発生状況について：<https://www.mhlw.go.jp/content/000595559.pdf>」、令和2年2月14日、厚生労働省）、では、その要因は次のうちどれか。1)マスクの高着用率、2)アクリル板設置、3)人流抑制、4)手指消毒、5)ソーシャル・ディスタンス、6)予防接種、7)気の緩みのなさ、8)その他。

答えは、8)以外にないだろう。2019年12月末は、一連の感染対策の開始以前なのだから。

さて、そんな風に、虚心坦懐に問答を積み重ねることが、学問の本質だとすれば、この3年間で、大学はどんな役割を果たし得たか、と考えさせられる。実は、騒動前までは「マスクにインフルエンザ感染予防効果ほぼ無し」が科学的コンセンサスだった（例：宮坂昌之『免疫力を強くする』、ブルーバックス、2019、第1章5節）。そして、上述のような種類の「探求」を丁寧に多角的に行えば、もう少しまともな「新型コロナ」感染症対策に思い至ったはずだろうと思う。に

もかわらず、大学は、この間、「探求力」よりも、むしろ「付和雷同力」を学生たちに求めては  
いなかったか。はたして「学術的知見」を発信し地域から信頼される「知」の拠点たり得たか。

さて本題である。2022年度後期「学際知（人文系）」は、1科目から同一教員による3報告があ  
ったのみである。報告が少ないため、直にそちらを見てもらえば事足りるので、とりたてて総括  
コメントを記すまでもないかもしれない。一応、一言するなら、教員1人で200名近い履修者と  
いう、(本学のように大規模でなく、かつST比も悪くない大学環境としては)アンバランスな事  
態が生じているように見えること以外、特に問題なく、良好な結果に見える。

ただ、ここで敢えてこの度の、(複数科目から寄せられてよいはずの)コメントの「不在」に耳  
を澄ませてみたい。「不在」の理由が、i)コメントを寄せることができないほど、各教員が多忙で  
あるから、ii) (種々の感染対策のように?)「やっている感」が目的のようなアンケートと思われ  
ているから、というのでなければよいのだが。

言うまでもなく、教員も学生も、一度きりの貴重な人生である。時間を摩滅させるばかりの無  
駄なルール/指示が次々に繰り出されれば、優先順位をつけ、時には無視もやむを得ない。ある  
いはもっと積極的に、「暇」(スコレー) (=schoolの語源)こそが、研究・教育改善の鍵に他なら  
ない — 「不在」にそんな悲痛な声を聞き取るとすれば幻聴であろうか。ともかく、余計な深読  
みは措くとしても、良質な「問い」を伴う「探求」を不可能にするほどの学務状況になっていな  
いかには注意が必要である。大学はそのようにして、いわば多忙なる安逸状態に陥ることによ  
って、かえって、簡単に自らの存在意義を失いかねないからである。「手術は成功したが、患者は死  
んだ」(竹内洋氏の危惧)のようなことに、大学改革がならぬようにしなければならない。

最後に、主体的・自律的な学際知探求を促すための「マスク」関連リンクを付記しておきたい。

(i) 「<https://www.youtube.com/watch?v=6wxDej7v5jg>」

(ii) 「<https://www.youtube.com/watch?v=xAwIs1mipog>」

(iii) 「<https://www.youtube.com/watch?v=S3vY2LyQn1A>」

### 【学際知（社会系）】

3 キャンパス合同のオンライン授業の場合、履修人数が多いこともあり、授業への参加状況が  
把握しづらいという点が課題である。とくに、オンラインでのグループワークの参加状況や実施  
状況が教員の側からはなかなかわからないため、グループごとのワークの質にもばらつきがある  
と考えられる。実施方法として、カメラオンを求める場合には、学生それぞれの受けとめ方の違  
い等がある。オンライングループワークを活性化させるためのさらなる工夫が必要である。

なお、学生のアンケート数が少ないためか、教員コメントのない授業が多かった。授業評価ア  
ンケートへの積極的な協力を呼び掛けていくことも課題である。

### 【学際知（自然系）】

昨年度の後期は対面形式での授業が可能であったが後半になって大学の基準変更がありオンラ  
イン授業に切り替えるといった混乱があった。今年度の後期は基本的に対面で行うことが可能で

あり、昨年度の学生アンケートや授業内容に応じてオンライン／対面形式を概ね適切に選択して授業実施が行われたと判断される。なお、アンケートの回答率が高くないため、全体的な評価・感想が得られていないことへの指摘や、さらにアンケートの回答率を上げることを課題とするコメントが見られた。

### 【論理思考表現】

アカデミック・ライティングは、これまで同様に各担当教員が教科書の内容に沿って授業を進め、できるだけ双方向になるように話し合いや発表の機会を設けられており、円滑に授業が実施されているものと思われる。クリティカル・シンキングについても、各担当教員がそれぞれの方法で学生の理解度を把握しながら適切に実施され、学生からは好意的な評価が得られている。一方で、両科目ともに課題の締切や成績評価などの共通化と学生への周知が必要であるというコメントもあることから、授業開始前に担当教員間での相互確認が必要であると思われる。

### 【キャリア開発】

キャリアビジョン（デベロップメント）は、グループワークを主体とした授業であり、授業時間外に課題に取り組むよう求めているため、能動的学習機会に関する質問では、「強く思う」、「そう思う」の回答が大半となっている。ただし、前年度に比べて受講者数が増えたため、グループワークの際に教員のフィードバックが十分できなかったという課題があり、改善が必要である。

インターンシップは、履修者を対象に事前説明を行い、チャットによる質問対応を取り入れている。受講者は、就業体験や報告書の提出に関して必要に応じてサポートやフィードバックを受けることができたものと思われる。

### 【ダイバーシティ】

「多様性理解」「人権論」「世界の言語と文化」の各科目より担当者のコメントを得た。オンライン授業から対面授業への移行期にあたり、授業の形態について各担当者が苦心している様子うかがえる。3キャンパス横断型の科目が多いため、発信地を定めた遠隔授業・ハイフレックス・完全オンラインなどさまざまな形態が考えられるが、方法論に終始しないよう学生とのインタラクションに心を配る様子もうかがえる。

### 【入門演習】

前期でも指摘があったことだが、入門演習はどの科目も3キャンパスにまたがるものであるためオンラインで行わざるを得ない。しかし「演習」という科目の性格上、オンラインでは（具体的に学生から不満があった、ということではないようだが）いくらかのやりにくさを感じる担当教員も存在するようである。また、教科によっては、学部（キャンパス）ごとに必要とする内容が異なるケースもあり、「入門」をどう位置付けるのか議論する必要があるかもしれない。

令和04年度後期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 全学共通教育科目  
 ■科目名 全学共通教育科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 6,457  
 ■回答者数 1,380  
 ■回答率 21.4%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	760 55.1%	594 43.0%	23 1.7%	3 0.2%	3.53
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	166 12.0%	451 32.7%	658 47.7%	105 7.6%	2.49
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	626 45.4%	625 45.3%	94 6.8%	35 2.5%	3.33
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	672 48.7%	551 39.9%	114 8.3%	43 3.1%	3.34
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	610 44.2%	692 50.1%	67 4.9%	11 0.8%	3.38
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	573 41.5%	738 53.5%	62 4.5%	7 0.5%	3.36
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	601 43.6%	702 50.9%	63 4.6%	14 1.0%	3.37
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたいくなる。	459 33.3%	752 54.5%	147 10.7%	22 1.6%	3.19
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	564 40.9%	729 52.8%	72 5.2%	15 1.1%	3.33
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	631 45.7%	665 48.2%	62 4.5%	22 1.6%	3.38

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.92	3.42	3.57	3.77	4.00	0.30
1.00	2.22	2.50	2.89	4.00	0.53
2.40	3.00	3.40	3.71	4.00	0.39
1.00	3.05	3.42	3.75	4.00	0.58
1.00	3.21	3.41	3.63	4.00	0.39
1.00	3.08	3.38	3.57	4.00	0.41
2.50	3.19	3.43	3.60	4.00	0.32
1.00	3.00	3.27	3.50	4.00	0.42
1.00	3.20	3.39	3.57	4.00	0.40
1.00	3.20	3.44	3.75	4.00	0.43

---

## 教職課程

---

### 【 前 期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 142
- 回答率 26.3%

#### 総括コメント

前年同期の結果と比較すると、回答率が大きく低下している（55.8%→26.3%）。回答方法の変化が影響しているのかもしれないが、信頼できるデータとして考えてよいのか、疑問を感じる。それを踏まえてではあるが、結果を見てみると、項目によって多少の増減はみられるものの、概ね同様の結果を示しているように見受けられ、高い評価を得ている。

令和04年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 教職課程科目  
 ■科目名 教職課程科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 540  
 ■回答者数 142  
 ■回答率 26.3%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	90 63.4%	52 36.6%	0 0.0%	0 0.0%	3.63
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	27 19.0%	65 45.8%	48 33.8%	2 1.4%	2.82
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	69 48.6%	65 45.8%	6 4.2%	2 1.4%	3.42
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	62 43.7%	58 40.8%	21 14.8%	1 0.7%	3.27
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	72 50.7%	66 46.5%	3 2.1%	1 0.7%	3.47
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。	70 49.3%	70 49.3%	2 1.4%	0 0.0%	3.48
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ ファイルなど)は適切だ。	76 53.5%	64 45.1%	2 1.4%	0 0.0%	3.52
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	73 51.4%	64 45.1%	5 3.5%	0 0.0%	3.48
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	67 47.2%	71 50.0%	4 2.8%	0 0.0%	3.44
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	70 49.3%	68 47.9%	4 2.8%	0 0.0%	3.46

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.33	3.67	4.00	4.00	0.34
2.00	2.67	2.83	3.00	4.00	0.52
3.00	3.13	3.33	3.69	4.00	0.36
2.63	3.00	3.50	3.75	4.00	0.45
3.00	3.33	3.50	3.67	4.00	0.30
3.00	3.33	3.44	4.00	4.00	0.35
3.00	3.33	3.50	3.75	4.00	0.33
3.00	3.31	3.42	3.75	4.00	0.35
3.00	3.33	3.50	3.67	4.00	0.35
3.00	3.31	3.42	4.00	4.00	0.37

---

## 教職課程

---

### 【 後 期 】

- 授業科目の概要 教職科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 85
- 回答率 19.9%

#### 総括コメント

前期同様、回答率が低く、信頼性のあるデータとは思われない。これは教職科目にとどまらず、おそらく全科目で見られる現象かと思われる。これを改善しなければ労多くして益少なしということになるだろう。結果を見ると、前期同様、項目によって多少の増減はあるものの、概ね高い評価を得ていると考えられる。今後も今まで同様の評価を得られるよう、各科目での研鑽が望まれる。

令和04年度後期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 教職課程科目  
 ■科目名 教職課程科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 428  
 ■回答者数 85  
 ■回答率 19.9%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	53 62.4%	31 36.5%	0 0.0%	1 1.2%	3.60
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	16 18.8%	29 34.1%	32 37.6%	8 9.4%	2.62
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	39 45.9%	35 41.2%	9 10.6%	2 2.4%	3.31
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	46 54.1%	32 37.6%	5 5.9%	2 2.4%	3.44
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	40 47.1%	38 44.7%	5 5.9%	2 2.4%	3.36
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	45 52.9%	38 44.7%	0 0.0%	2 2.4%	3.48
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	42 49.4%	41 48.2%	1 1.2%	1 1.2%	3.46
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	41 48.2%	40 47.1%	3 3.5%	1 1.2%	3.42
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	40 47.1%	40 47.1%	4 4.7%	1 1.2%	3.40
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	37 43.5%	46 54.1%	0 0.0%	2 2.4%	3.39

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.46	3.71	4.00	4.00	0.38
1.00	2.00	2.57	3.20	3.80	0.80
2.00	3.00	3.40	3.90	4.00	0.70
2.54	3.43	3.80	4.00	4.00	0.43
2.00	3.00	3.20	3.86	4.00	0.58
2.92	3.00	3.57	4.00	4.00	0.41
3.00	3.11	3.57	4.00	4.00	0.42
2.92	3.27	3.50	4.00	4.00	0.41
2.85	3.00	3.50	4.00	4.00	0.45
3.00	3.04	3.50	4.00	4.00	0.45